

2016 年度 (平成 28 年度)

コース名 地球科学コース

領域名 地球表層科学領域

教員名 宮内 崇裕

電子メール tmiya@faculty.chiba-u.jp

(1) 研究論文などのリスト (印刷中を含む)

	著者・発表者 等	タイトル	発表雑誌・会合 等	巻・号	頁	発行・発表年等	掲載論文の DOI (付与されている場合)
(1)	宮内崇裕 (分 担執筆)	「地形の辞典」 (日本地形学連 合編)	朝倉書店	全 1032 頁	担当：変 動地形, 海岸地形 (合計 5 頁)	2017 年 1 月 25 日	
(2)	Ishimura, D. and <u>Miyauchi, T.</u>	Holocene environmental changes and paleo-tsunami history in Onuma on the southern part of the Sanriku Coast, northeast Japan	Marine Geology	386		In press (accepted on January,30, 2017)	
(3)	Sato, T., Higuchi, H., <u>Miyauchi, T.</u> , Endo, K., Tsumura, N., Ito, T., Noda, A., Matsu'ura, M.	The source model and recurrence interval of Genroku-type Kanto earthquakes estimated from paleo-shoreline data	Earth, Planets and Space	68:17		2016	DOI 10.1186/s40623-016- 0395-3
(4)	Hashima, A., Sato, T., Sato, H., Asao, K., Furuya, H., Yamamoto, S., Kameo, K., <u>Miyauchi, T.</u>	Simulation of tectonic evolution of the Kanto Basin of Japan since 1 Ma due to subduction of the Pacific	Tectonophysics	679	1-14	2016	doi.org/10.1016/j.te cto.2016.04.005

	Ito, T., Tsumura, N., Kaneda, H	and Philippine Sea plates and the collision of the Izu-Bonin arc					
(5)	石村大輔・宮 内崇裕・早瀬 亮介・小原圭 一・山市 剛	完新統コア中の 有機質堆積物（ バルク）試料と 生物化石試料間 に認められる放 射性炭素年代 値の系統的な差 とその要因	地学雑誌	125 卷 2 号	243-256.	2016	
(6)	宮内崇裕	海成段丘の存在 が語るもの ：地震性地殻変 動と非地震性地 殻変動	科学(岩波書店)	1002 号	17-19.	2016	
(7)	熊原康博・後 藤秀昭・澤 祥・平川一 臣・宮内崇裕	都市圏活断層図 「1:25,000, 鴻 巣」および解説 書	国土交通省国土 地理院		D1-No.7 43	2016	

(2) 卒業研究、大学院修士および博士論文修了指導人数

- ・卒業研究 3名
- ・大学院修士 0名
- ・大学院博士 0名

(3) 教育業績（自己申告、テキストの作成など、授業の工夫など）

担当科目を順調に実施した。

(普遍教育)地域コア科目「地域の地学的背景を知る」(COC プロジェクト対応科目)

(学部専門科目)地学基礎実験 A, 地球科学英語, 地表動態学概論 2, 地形学Ⅱ, 地形学実験Ⅰ, 地形学実験Ⅱ, 卒業研究, 地球科学演習

(大学院博士前期課程) 地形学Ⅴ, 地表動態学特論, 特別演習Ⅰ, 特別演習Ⅱ, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ

(大学院博士後期課程) 地形学Ⅴ, 特別演習Ⅰ, 特別演習Ⅱ, 特別研究Ⅰ, 特別研究Ⅱ

(4) 国際会議出席と招待リスト

なし。

(5) 国際共同研究（共同研究名，研究内容等）

所属	職種	氏名	共同研究名	研究内容	年度
理	教授	宮内崇裕	フィリピンの地震発生 予測精度向上に関する	活断層および海成段丘のマッピングと解析によって、フィ リピンにおける地震発生リスクの評価を行う。平成28年度	28

		研究（フィリピン国立地震・火山研究所）	は、11月にフィリピンにおける活断層および地震性地殻変動の現地調査を行った。
--	--	---------------------	--

(6) 新聞や雑誌等で報道された研究成果等（報道媒体，報道年月日，報道内容等）

(7) 国際並びに国内学会での受賞（賞名，その内容，受賞理由等）

(8) 地域・社会と連携した教育・研究活動，学会、国、県などへの協力，など

1. 文部科学省・地震調査研究推進本部地震調査委員会委員（長期評価活断層分科会）：社会的・経済的に大きな影響を与える 110 の主要活断層から発生する地震の長期評価を継続的に行うとともに、それ以外の活断層を含めた地域単位の地震発生の長期評価を総合的に行った。また、同時に同省公募による重点研究である「活断層補完調査」，「沿岸海域活断層調査」の選定技術委員も務めた
2. 環境省・原子力規制庁（原子力規制委員会）に設置された「敷地内破砕帯の評価に関する有識者会議」委員を 2012 年 12 月より努めている。今後の日本の社会・経済の動向に大きく左右する審議会に出席し、平成 28 年度は「高速増殖炉もんじゅ」敷地内の活断層評価・現地調査を行うとともに、他の原発敷地内活断層評価のピアレビュー会合に出席しコメントし、最終報告をとりまとめた。
3. 国土交通省・国土地理院 全国活断層帯情報整備検討委員会（旧：都市圏活断層図作成調査検討委員会）委員：1995 年の阪神・淡路大震災を契機に、活断層に関する情報の整備及び公開の必要性が高まったことに応えるため、国土地理院では、人口が集中し、大地震の際に大きな被害が予想される都市域とその周辺について、活断層の位置を詳細に表示した 2 万 5 千分の 1「都市圏活断層図」を平成 7 年より活断層の研究者と共同で作成した。
4. (財)地震予知総合研究振興会活断層位置形状検討ワーキンググループ委員会委員（平成 14 年 5 月より現在に至る）：文部科学省地震調査研究推進本部からの委託を受けて地震調査委員会等の審議に資するための活断層に関する位置・形状の情報の収集・解析を行った。
5. 日本第四紀学会評議員（平成 25 年 9 月～27 年 8 月）：広報幹事として学会の運営にあたり、人類を取り巻く地球環境に関する当該学会の成果を社会へ発信・還元の重責を担った。
6. 千葉大学出身千葉県校長会「楨葉会」において、「千葉県を襲う直下型大地震」と題する講演を行い、教育関係管理責任者における震災減災の意識向上に協力した（平成 28 年 7 月 16 日）
7. 千葉市文化振興財団「千葉芸術文化塾」において、「首都圏直下型大地震に備える」と題する講演を行い、千葉市民の防災・減災対策のための技術力向上に協力した（平成 28 年 10 月 6 日）。

(9) 特許（発明者名，発明の名称，出願日，出願番号，整理番号等）（現時点で公表できるもののみ）